

The dSPACE logo is displayed in a white rectangular box. The word "dSPACE" is written in a bold, sans-serif font. The "d" is red, and "SPACE" is blue.A photograph of a conference reception party. In the foreground, three men in dark suits are engaged in conversation around a tall, silver, cylindrical bar. One man is holding a glass of wine. In the background, many other attendees in business attire are scattered across a large, modern event space with a blue and white patterned carpet. A large, illuminated blue structure is visible in the background. The overall atmosphere is professional and social.

Driven by Innovation

1886年1月29日、カール・ベンツは「ガソリンエンジンを動力源とする自動車」についての特許を申請しました。それからちょうど127年後の2013年1月29日、ドイツの自動車メーカーおよびサプライヤが、第7回dSPACE German User Conferenceに集まりました。カンファレンスは、最新の開発トピックやトレンドを共有する貴重な機会となりました。また、特別企画として自動車工学のルーツをたどるメルセデスベンツ博物館でのレセプションパーティを行いました。



自動車メーカーおよびサプライヤが第7回dSPACE German User Conferenceで最新事例を発表





基調講演を行ったThomas Lieber氏 (Volkswagen AG) および Dr. Herbert Hanselmann (dSPACE)



180人の出席者が集まったシュトゥットガルトのLedermalleホテル



1886年に発行された特許番号37435は、自動車の出生証明書と言えます。1886年7月には、初めて公道を走った三輪のBenz Patent Motorwagen Type 1が新聞記事となりました。これらの出来事は、それ以後の人類のモビリティを完全に変貌させました。こうして生まれた自動車は、純粋な機械的構造物から複雑なメカトロニクスシステムに進化を遂げました。技術的進歩に加え世間の期待と環境要件の変化が、メーカーに次々と課題を突き付けています。このような課題の解決には、多くの場合、今日の車ですます重要な役割を果たしている電子システムとそこに組み込まれるソフトウェアが鍵となります。

自動車の127年:現在の課題とアイデア

2013年の第7回dSPACE German User Conferenceでは、車載エレクトロニクスとソフトウェアの開発に関するホットな話題が取り上げられました。Volkswagen AGの電気駆動部門の長であるThomas Lieber氏は、2日間にわたる講演の冒頭で「Electromobility as a Trend and Its Effects on the Value Added Chain」と題して基調講演を行いました。Lieber氏は、枯渇する資源、巨大都市化、排ガス規制法などの課題に自動車メーカーがどのように対応しているのか、その結果としての戦略、コンセプト、開発タスクをわかりやすく説明しました。Electric Drive、運転支援

システム、セーフティクリティカルなアプリケーション分野でのその他の興味深いプロジェクトは、現在の開発トレンドにさらなる見通しをもたらしました。講演の中心となったのは、開発ツールと開発手法により効率化を図るというコンセプトでした。また、dSPACEの最新ツールSYNECT® (ABB社、Audi社) およびVEOS® (Volkswagen社) を使い始めたお客様からの有益なフィードバックにも大きな関心が寄せられました。また複数の講演で取り上げられたように、多くのお客様が、開発プロセスで新しいシミュレータシステムSCALEXIO®に既にしっかりした役割を与えていることがわかりました。

「この10年間で、自動車は完全にネットワーク化されました。今後10年間で、自動車は環境とシームレスにつながるようになるでしょう」

Thomas Lieber氏, Volkswagen AG



5



6



7



8



9



セミナーを通じた交流の機会

カンファレンスの3日目には、最新製品、技術をさらに詳しく紹介するさまざまなセミナーを実施しました。dSPACEの製品エキスパートが、データ管理、仮想検証、アプリケーションとの適合性、およびシステムアーキテクチャを効率的に処理するワークフローと手法を紹介しました。各セミナーの休憩時には、出席者どうしの活発な意見交換の機会となり、交流を深める場ともなりました。

夜のパーティ会場となった、メルセデスベンツ博物館は、参加者それぞれが、自動車の歴史を振り返りながら会話を楽しみ新しい交流の輪を広げることができる、素晴らしい場所となりました。ビュッフェ形式の食事を楽しみ、盛りだくさんの一日の幕を閉じました。この場を借りて、このイベントを成功に導いた講演者の皆様、出展いただいたパートナーのBTC社、DMecS社、Elektrobit社、MathWorks社、MES社、そしてご出席の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。今後も今回のようなユーザ会を開催し、皆様との交流を続けていきたいと思っております。■

講演者：

1. Robert Walesch (AUDI AG)
2. Richard Bergmann氏(AUDI AG)
Robert Walesch氏とRichard Bergmann氏は、Audi AGのHIL戦略と、ECUソフトウェアの妥当性確認におけるSCALEXIOの使用について説明しました。
3. Steffen Stauder氏(カイザーラウテルン工科大学)
Steffen Stauder氏は、dSPACEが設計したメカトロニクスHILドライビングシミュレータが、メカトロニクスステアリングシステムの制御および機能のモデルベース開発をどのように進めているかを発表しました。
4. Thomas Wolf氏 (WABCO Fahrzeugsysteme GmbH)
5. Dr. Oliver Schütte (WABCO Fahrzeugsysteme GmbH)
Thomas Wolf氏とDr. Oliver Schüttelは、SCALEXIOおよびAutomotive Simulation Model (ASM) が大きな役割を果たしているWABCO社でのテストプロセスの自動化の目的について説明しました。
6. Christoph Freier氏 (Volkswagen AG)
Christoph Freier氏は、テストプラットフォームとしてdSPACE VEOSの評価が行われた、Volkswagen AGでのECUの完全な仮想検証に関する画期的なプロジェクトを報告しました。
7. Stefan Riegl氏 (MAN Truck & Bus AG)
Stefan Riegl氏は、エンジニアリングデータがdSPACEシミュレータによる統合テストの自動化にどのように役立つかを発表しました。
8. Alessandro Recca氏 (ABB Switzerland Ltd.)
Alessandro Recca氏は、鉄道車両向け駆動ソフトウェアの自動テストについて発表し、ABB社がこのプロセスでdSPACEのデータ管理ソフトウェア「SYNECT」をどのように有効利用しているかを説明しました。
9. Gerhard Kiffe氏 (Audi Electronics Venture GmbH)
10. Thomas Bock氏 (Audi Electronics Venture GmbH)
Gerhard Kiffe氏とThomas Bock氏は、データ管理ソフトウェア「SYNECT」の開発におけるdSPACEとの戦略的協力も含め、Audi Software Group (EnProVe) における組み込みソフトウェア開発の継続的改善プロセスを組織化するためのプロジェクトを発表しました。
11. Dr. Mouham Tanimou (Robert Bosch GmbH)
Dr. Mouham Tanimouは、自動車メーカーとサプライヤ間でのデータ仕様の容易な交換をサポートするASAM MDX (Meta Data eXchange Format) ベースの手法を説明しました。Bosch社は、MDXの生成にdSPACE TargetLink®とTargetLink Data Dictionaryを使用しています。
12. Dr. Florian Wohlgemuth (Daimler AG)
Dr. Florian Wohlgemuthは、快適機能やインテリア機能のAUTOSAR準拠開発プロセスに関する研究を発表しました。Daimler社は、dSPACE TargetLink量産コード生成ツールを使用して、AUTOSAR ECU向けの量産コードを生成しています。
13. Dr. Heiko Zatocil (Siemens AG)
Dr. Heiko Zatocilは、ISO 26262準拠のモデルベース開発プロセスを発表しました。Siemens社は、このプロセスに量産コード生成ツールdSPACE TargetLinkを有効に活用しています。
14. Philip Markschläger氏 (Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG)
Philip Markschläger氏は、ドライビング効率化システムPorsche InnoDriveについて早期段階での研究を発表し、dSPACE MicroAutoBoxがエネルギー管理システムのプロトタイプ事前開発にどのように使用されているかを説明しました。

